

## 「学び」

きな はると  
喜納 暖大

僕は、北中城村の平和大使として、長崎へ行き、色々な事を学びました。長崎に落ちた原爆は、想像以上の恐ろしさで、一番速い爆風は飛行機を上回る速さでした。原爆の名前は、「ファットマン」日本語でいう「ふとっちょ」という意味通り、丸く太ったような原爆でした。長さは3.25m、直径1.52m、重さ4.5t、被爆者は死者73,884人、負傷者74,000人となっています。被害をグラフで見てみた所、爆風50%、熱線35%、放射線15%でした。爆風でガラス等が突き刺さり、熱線で物が溶け、放射線で脱毛、白血病、癌などの病気になりました。被爆遺構の浦上天主堂、一本柱鳥居、山王神社のクスノキなどを見て、寒気を感じました。僕らは色々なことを学びました。しかし、それだけではなく、交流も行いました。長崎や他県から来た平和大使とゲームや会話などをたくさん行い、皆と仲を深めることができました。

また、交流会では、皆に名刺を渡したりして話をしながら、ごうかな料理を頂いていました。そして、出し物を披露しました。僕達はクイズを出しました。皆が盛り上がってくれたので嬉しかったです。これを機に、さらに仲を深めることができました。さらに僕達は色々な所を観光しました。軍艦島を視察したり、平和の灯のキャンドルをつくったり、路面電車で移動したり、稲佐山展望台から美しい夜景と満月を見たり、長崎市内を歩いたりして、長崎の色々な物に触れて、そして感じました。沖縄にはない、長崎のみりよくを楽しむことができました。

そして、今回一緒に長崎をおとずれた、北谷町の皆さんには感謝しています。今回の旅でいろいろなお話をして、歌ったりして、協力したりしてと色々救われました。仲も深まり、すぐとなりの町なので、また機会があれば会いたいです。今回の旅で一番印象に残ったのはやはり、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典です。長崎平和宣言や、平和への誓いなどが沖縄とは似ているけれど違う内容でおかしな感覚でした。会場には人がいっぱいいて、着席できて本当によかったです。72年前の被爆者に黙とうし、会場から去りました。

今回の旅で長崎と沖縄の戦跡の違いと共通点を見つけることができました。違いは、地上戦と原爆です。そして、共通点は同じ苦しみ、後悔をしたということ、一生懸命前に進もうとしていることです。

長崎と沖縄の体験者の話では、大切な人を見捨てたという苦しみと後悔しています。これは己のせいではなく、戦争のせいというのも共通点です。そして、一生懸命前に進んでいます。長崎は外国の文化を入れて発展していきまし

た。沖縄もそれは同じです。互いに同じ悲しみを負いました。これからは手を取りあっていきたいと思いました。平和大使の仕事はまだ始まったばかりです。長崎のことでも全てを知ったわけではないのでこれからもいろいろと学んでいこうと思います。

## 「平和学習を体験して」

あさと たくま  
安里 卓真

皆さんは、長崎県についてどんな事を思い浮かべますか。僕が最初に浮かんだのがカステラで、他にも三大夜景や、出島など楽しい事ばかりです。しかし、そんな楽しい事が多い長崎県ですが、大変悲惨な過去を持っている県である事が平和学習を通して、あらためて分かりました。最初長崎に着いた時、沖縄とは違う暑さで、風通しが悪く、沖縄の方が快適だと感じました。でも、多くの名所があり、車道の間には路面電車が通っており、風景はとても最高でした。本当に七十年以上前に原爆が落とされたとは思えませんでした。

そうです、長崎の悲惨な過去とは原子爆弾が投下されたことです。原子爆弾とは、ウランやプルトニウムに中性子を衝突させたときに原子核が核分裂し、中性子が飛び出すと共に、高いエネルギーが発生する現象を利用した兵器です。威力は、爆心地で三千～四千度、1 km離れたところでおよそ千八百度ぐらいで、爆風は、一般の家屋が、原形をとどめないまでに破壊されました。僕は、これだけでは詳しい威力は分かりませんでした。でも、被爆者体験講話という実際に体験した人から、話が聞けることになりました。

森口さんは当時工場で働いている時に被爆したそうです。被爆した瞬間、周りがピンク色に囲まれたそうです。その後、爆風で窓が割れて、とっさにしゃがんで大けがはまぬがれたそうです。実際に話を聞くと、資料や説明書を見るよりも詳しく、体験者しか語れない部分が多くありました。例えば、さっきも話したように、周りがピンク色に囲まれたと言っていましたが、これは、森口さんが体験した時に見えた色で、体験者によっては、赤い色やオレンジ色に見えたりしたそうです。つまり、体験者によって、原爆の感じ方が違うのです。原爆が投下された後も、放射線による被害が多く出たそうです。放射線とは、五感では全く感じる事ができないものですが、物質や人体を透過する力があり、その際に細胞や遺伝子に異常を引き起こします。森口さんの弟も、それにより死んでしまいました。最初は、普通に元気だったそうで、お母さんを探す手伝いをする程でしたが、時間が経つにつれ、下痢、発熱などが悪化し、亡くなったそうです。原爆は、一瞬で多くの命を奪いますが、その後も、放射線でも命を奪ったり苦しめたりします。それが今、約一万五千七百もあると思うと、とても恐ろしいと思いました。

ピースフォーラムでは、主に平和になる方法について話し合いました。最初に平和じゃない時について話し合いをしました。僕のグループでは色々な意見が出ました。例えば、友達とケンカした時、ラインで無視された時、イジメら

れた時などが出ました。僕のグループで多く出た意見がケンカした時でした。次に、ケンカした時の改善策について話し合いました。これも、多くの意見がありました。例えば、自分から謝る、いったん落ち着かせる、話し合いで決めるなどの意見が出ていました。それをまとめて、グループ同士で発表し合いました。他のグループはイジメられた時、怒られた時などが出ていました。それを改善する方法も多く出ていました。すごいなと思う意見や面白いなと思う意見が多くあったので、とても良かったです。僕は、この平和学習を体験して、もう戦争は起こしてはいけないと思いました。なぜなら、戦争は必ず多くの死者を出します。もし、戦争に勝利しても、死んだ家族は帰ってきません。なので、戦争は絶対起こしてはいけないと思います。

## 「平和学習を通して」

みやぎ まい  
宮城 天愛

この4日間を通して、原爆の恐怖や平和の大切さを改めて理解し、深く考える事ができました。たった一つの原子爆弾で18万人以上の死者や負傷者が出るとは思わず、青少年ピースフォーラムのBB弾の音を聞いてあまりにも止む事の無い雨を聞き、考えるだけでも悪寒が背中を走りました。

また、被爆者である深堀譲次さんのお話は家族を二人も失った事への悲しさ、つらさと「絶対に戦争をしてはならない」という平和への想い、願いを心から訴えてくれていた事が印象的でした。そして、平和な世の中にする為にはどんな事をしたいかという質問では「差別を無くし、互いの良い所を見つける」「いじめを無くす」といった意見も見られました。

長崎と沖縄の共通点は「巻き込まれた住民の数が多い」という所でした。罪も無い人々を、将来に希望を持っていた子供達を、原爆は消し去り、今だって被爆した人は過去を、未来を怯えて過ごしていると思います。そんな核兵器が「国力の象徴」となっており、日本も核兵器に守られている事を知ると、世界からなぜ核兵器が無くならないのかが分かるような気がしてきました。

原爆投下後の写真では崩れた浦上天主堂や顔や背に火傷を負った少女、灰化して男女の判別がつかなくなった人等があり、見ていて「これが本当に72年前、長崎であった事なのか？」と、疑問を抱きたくなるほどでした。

「写真は語る」以前聞いた事があるような言葉ですが、今回身をもってその意味を知る事ができました。長崎の式典では献水や献花、城山小学校らによる合唱、被爆者による講演会等がありました。今回、北谷町の人や県外の人と楽しく、ときには一緒に考える良い機会に巡り合えたと思っています。

あの研修が無ければ、もしかしたら私は平和について関心を持たなかった事でしょう。一日一回でも笑顔がある世界、差別無く他の文化も受け入れ、仲良く暮らせる世界、平和の尊さについて発信し、皆で平和について考える事。これらの事がいずれ平和につながるのではと私は思います。

## 「平和学習を通して」

なかまつ ことか  
仲松 琴花

私は八月七日から十日まで三泊四日の長崎平和学習に参加しました。そこで、長崎原爆投下の実態について学び、平和について考えてきました。

私は平和学習に行くまで、長崎に投下された原子爆弾のことや、その被害について深く知りませんでした。平和学習の中で訪れた「長崎原爆資料館」では、私が想像していた以上に衝撃を受けました。原子爆弾の被害実態は、一瞬で木が根こそぎふっ飛んでしまう程の威力がある爆風や、大やけどを負ってしまう熱線、人体の細胞を壊し、死に至らなくても、のちのちに病気を引き起こす後遺症や生まれてくる子供にまで影響を及ぼすこともある放射線により、たった一発の原子爆弾でおよそ十五万もの死傷者を出し、長崎の街を一瞬にして破壊したそうです。その他にも、原爆投下直後の長崎の街の惨状を再現したものや写真、人の骨とガラスがくっついた生々しい実物なども展示されていて、すごく心が痛みました。平和学習三日目には、原爆犠牲者の平和祈念式典にも参加しました。そこには、日本だけでなく、他の国々からも多くの人に参加していました。そこで、長崎市長さんが語った言葉で「最も怖いのは無関心なこと、そして忘れていくことです。」とおっしゃっていました。

その言葉で、今ここにみんなが集まっている意義を考えさせられました。辛く、悲惨な経験を封印したい気持ちに反して、心と体の痛みを耐えながら、世界の未来を守る為に伝えてくれている被爆者の方々が少なくなっている現状を、次は私達一人一人が、自分で見て、聞いて、調べて感じてきたことを伝え、戦争体験者の方々からの平和のバトンを途切れさせない様、つないでいこうと誓いました。

今年、七月七日に世界各国の122カ国が加盟した「核兵器禁止条約」が採択されました。ですが、日本はこの条約に参加していません。そして、世界にはまだまだ核兵器を持っている国があります。もう二度と長崎で起きた悲劇を繰り返さない為にも、核兵器を持たない国を一つでも多くつくる必要があると思います。私達は、毎日のようにテレビやインターネットなどでもとびかっている北朝鮮のミサイル問題や平和を損ねる問題を耳にしています。ですが、それを自分とは遠い問題として考えている人がほとんどだと思います。

それを自分の身近にとらえ、平和について一人一人が考えていかなければいけないと思います。今回、平和学習に参加して、原爆投下やその恐ろしさを学ぶことができ、戦争への恐怖心や反対する気持ちがより強まりました。これまで私達は、沖縄戦について学ぶ機会も多く、いろいろ学んできました。

一方で、長崎の原爆投下については、知らないことの方が多く、今回平和学習で実際に長崎で学んだ原爆が人々に与える傷、そして今も苦しむ人々がいるということを、私達が先頭にたって発信していきたいです。